

InstallShield 2008 Express Edition

2007 年 8 月 16 日

はじめに

InstallShield 2008 Express Edition には多くの新機能および強化機能が含まれています。主な内容は次のとおりです。

- Express プロジェクト用の新しいエンド ユーザー ダイアログ テーマ
- プロジェクトのビルド時に、製品の実行可能ファイルを含むすべてのファイルにデジタル署名ができる機能
- デジタル署名における .pfx ファイルのサポート
- [リリース] ビュー、[ファイル] ビュー、[レジストリ] ビュー、および [再配布可能ファイル] ビューを含む、多数のビューにおけるユーザビリティ強化

また、InstallShield 2008 では、次のような主要なテクノロジーがサポートされています。

- IIS 7.0
- SSL 証明書
- Windows Embedded CE 6.x
- DirectX 9.0c オブジェクト
- Windows Server "Longhorn"

リリース ノートのアップデートを含む InstallShield 2008 Express Edition についての最新情報は、ナレッジベース記事「[Q113340](#)」をご覧ください。

重要な情報

ターゲット システムにおける **Windows 9x**、**Windows NT 4**、および **Windows Me** のサポートの終了

InstallShield Express Edition では、今回のリリースより、Windows 9x、Windows NT4、および Windows Me システム用のインストールを作成することができなくなりました。これらのオペレーティング システムを使用しているエンドユーザーが InstallShield 2008 Express Edition でビルドされたインストールを実行しようとしたときに、エンドユーザーによるレガシー オペレーティング システム上でのインストールの実行を防ぐ起動条件がプロジェクトに含まれていない場合、予期しない結果が発生する可能性があります。

レガシー オペレーティング システムのサポートは中止になりましたが、これらのオペレーティング システムをターゲットとする以前のバージョンの InstallShield Express Edition で作成されたプロジェクトがまだ存在することは十分考えられます。これらのプロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition にアップグレードしたとき、レガシー オペレーティング システムへのリファレンスは削除されません。そのため、オペレーティング システムの一覧が表示される箇所ではすべて、InstallShield Express Edition インターフェイスで [常にレガシー プラットフォームを表示する] チェック ボックスが表示されます。このチェック ボックスは、InstallShield Express Edition で表示されるオペレーティング システム一覧で、常にレガシー オペレーティ

グシステムを表示するかどうかを判別します。このチェックボックスを選択した場合、レガシーオペレーティングシステムが選択されているかどうかが表示され、ここでサポートされていないプラットフォームへのリファレンスをすべて削除することができます。このチェックボックスは **InstallShield** の次の領域などで表示されません:

- プロジェクトアシスタントの [インストール要件] ページ
- [条件ビルダ] ダイアログボックスの [オペレーティングシステム] タブ

Express プロジェクトでは、エンドユーザーがレガシーシステム上でインストールを実行するとメッセージを表示する起動条件を含めることができます。

[常にレガシープラットフォームを表示する] チェックボックスは、**InstallShield** インターフェイス全体の設定です。このチェックボックスを選択した場合、選択したときの **InstallShield** プロジェクトの種類および場所にかかわらず、コンピュータで開いているすべてのプロジェクトで、**InstallShield** の使用中、レガシーオペレーティングシステムチェックボックスが表示されます。同様に、このチェックボックスをクリアすると、**InstallShield** のすべてのプロジェクトにおいてレガシーオペレーティングシステムチェックボックスが非表示となります。

プロジェクトの移行に関するアラート

次のセクションは、**InstallShield 12 Express Edition** および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを **InstallShield 2008 Express Edition** に移行する際に発生する可能性のある問題についての情報です。詳しい情報は、ナレッジベースの記事「[Q113342](#)」を参照してください。

InstallShield Express Edition の以前のバージョンで作成されたプロジェクトを移行する

InstallShield 2008 Express Edition を使って、以前のバージョンで作成されたプロジェクトを開くと、プロジェクトを新しいバージョンに変換しますかという質問が **InstallShield 2008 Express Edition** のメッセージボックスで表示されます。[変換する] を選択すると、変換が行われる前に、例えば .765 というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップコピーが作成されます。以前のバージョンの **InstallShield Express Edition** でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から **0.765** を取り除いてください。**InstallShield 2008 Express Edition** のプロジェクトは、以前のバージョンの **InstallShield Express Edition** で開くことができませんのでご注意ください。

次の **InstallShield Express Edition** バージョンで作成した既存プロジェクトを **InstallShield 2008 Express Edition** に移行することができます: **InstallShield 12 Express Edition** 以前と **InstallShield Express 5** 以前。**InstallShield MultiPlatform** または **InstallShield Universal** で作成されたプロジェクトは、**InstallShield 2008 Express Edition** に移行することができませんのでご注意ください。

COM 抽出

今回より、**InstallShield** を使用して COM サーバーから COM 情報を抽出すると、データは **TypeLib** テーブルではなく **Registry** テーブルに書き込まれます。マイクロソフト社は **TypeLib** テーブルを使用しないことを強く推奨しています。詳しくは、MSDN Web サイトの [TypeLib Table](#) トピックを参照してください。

デフォルトで、ビルド時に未使用のディレクトリを .msi ファイルから自動的に削除する

InstallShield 12 Express Edition および以前のバージョンを使って作成した **Express** プロジェクトを **InstallShield 2008 Express Edition** にアップグレードすると、[リリース] ビューの [ビルド] タブに新しく追加された "未使用のディレクトリを保持する" 設定は、デフォルトで [いいえ] に設定されています。したがって、**Directory** テーブルの **Directory** 列に一覧表示されているディレクトリが .msi ファイル内の既知の場所で参照されない場合、ビルド時に **InstallShield** が作成する .msi ファイルの **Directory** テーブルからそのディレクトリは削除されます。これはマージモジュールがマージされてから削除されますが、.msi ファイルに存在するディレクトリのみが削除の対象となります。したがって、マージモジュールの **Directory** テーブルに新しい未使用のディレクトリが含まれている場合、そのディレクトリはインストールに追加されます。

あるケースにおいては、"未使用のディレクトリを保持する" 設定の値を [はい] に変更したほうが良い場合があります。たとえば、プロジェクトに、プロジェクトの他の領域では参照されていないディレクトリを使用しているカスタム アクションが含まれている場合、"未使用のディレクトリを保持する" 設定の値を [はい] に設定することもできます。

ダイアログ ボタンの UAC シールド アイコンのサポート

インストーラーが Windows Vista システム上で実行されているとき、インストーラーが昇格された権限でまだ実行されていない場合、[インストーラーの準備完了] ダイアログの [インストーラー] ボタンと [アンインストールの準備完了] ダイアログの [削除] ボタンに [ユーザー アカウント制御 (UAC)] シールド アイコンが表示されます。以下は、すべての新しいプロジェクトおよび InstallShield 12 Express Edition 以前から移行されたプロジェクトに適用します。

InstallShield は昇格された権限で実行されます。このため、Windows Vista システムでインストーラーを InstallShield 内から起動したとき、インストーラーは昇格された権限で実行され、[ユーザー アカウント制御 (UAC)] シールド アイコンは [インストーラーの準備完了] と [アンインストールの準備完了] ダイアログで表示されません。

ALLUSERS と [ユーザー情報] ダイアログの変更

InstallShield 2008 Express Edition より、すべての新規 Express プロジェクトでは、デフォルトで ALLUSERS プロパティが 1 に設定されています。ほとんどのインストーラーは、マシンごとに管理者権限を使用して実行される必要があるため、これが推奨される実装です。

InstallShield 12 Express Edition および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition にアップグレードしたとき、ALLUSERS プロパティの値は自動的に変更されません。また、このプロパティが以前のプロジェクトで定義されていない場合も、自動的に追加されません。新規または移行したプロジェクトで ALLUSERS の値を変更するには、[一般情報] ビューを利用します。

また、InstallShield 2008 Express Edition から、デフォルトで、すべての Express プロジェクトの [ユーザー情報] ダイアログは、エンドユーザーが製品をすべてのユーザーにインストールするか、または現在のユーザーのみにインストールするかを指定できるラジオ ボタンを表示しないようになっています。このダイアログについては、これが推奨される実装です。InstallShield 12 Express Edition および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition にアップグレードしたとき、[ユーザー情報] ダイアログは自動的に変更されません。[ダイアログ] ビューを利用して、このダイアログのラジオ グループ ボタンの表示と非表示を切り替えることができます。

リリースの "キャッシュ パス"設定における新しいデフォルト値

今回より、[リリース] ビューの "キャッシュ パス" 設定における圧縮リリースのためのデフォルト値が [LocalAppDataFolder]Downloaded Installations に設定されています。以前のデフォルト値 [WindowsFolder]Downloaded Installations は、ロックされたシステムで使用できないことがあります。プロジェクトを InstallShield 12 Express Edition および以前のバージョンから InstallShield 2008 Express Edition に移行したとき、"キャッシュ パス" 設定は自動的に変更されないため、必要な場合、この値を手動で変更します。

QuickPatch プロジェクトにおけるパッチの作成

今回のリリースより、InstallShield は QuickPatch パッケージの作成に Patchwiz.dll のバージョン 3.1 を使用します。

FLEXnet Connect 6.1 マージ モジュール

FLEXnet Connect マージ モジュール (旧 Update Service マージ モジュール) で使用されている DWUSVERSION プロパティが、FLEXnet Connect 6.1 リリースで変更されました。完全な詳細情報は、ナレッジベースの記事「[Q113086](#)」を参照してください。

Visual Studio の統合

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき Express Edition の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

Update Service から FLEXnet Connect への名前変更

Update Service は、新しく FLEXnet Connect に名前が変更されました。Update Service ビューは、今回より [アップデート通知] ビューという名前に変わりました。

DemoShield のサポート

DemoShield は今後、マクロヴィジョンまたはその他の公認販売代理店で販売されません。サポートも終了しました。このため、今後 InstallShield に DemoShield は統合されません。

新しい機能

Express プロジェクト用の新しいエンド ユーザー ダイアログ テーマ

ダイアログ テーマは、エンドユーザー ダイアログに統一感のとれた個性的な印象を与えることができる、あらかじめ定義されている 1 セットのイメージです。[ダイアログ] ビューの新しい "グローバル ダイアログ テーマ" 設定で選択したテーマ オプションを変更して、プロジェクトに提供されているテーマから任意のテーマを選択し、プロジェクトで使用されているすべての内部および外部ダイアログ (Setup.exe 初期化ダイアログを含む) に適用することができます。

デジタル署名の強化

ビルド時に、製品の実行可能ファイルを含むインストール内のすべてのファイルにデジタル署名が可能になりました。また、今回より、デジタル署名に personal information exchange ファイル (.pfx) が使用できるようになりました。Express プロジェクト タイプでは、この機能がサポートされています。

新しい [リリース] ビューの [署名] タブでは、InstallShield がファイルに署名するときに使用するデジタル署名に関する情報 (証明機関より付与されたデジタル署名ファイルなど) を指定します。[署名] タブでまた、デジタル署名をするインストール内のファイルを指定することもできます。

署名に .pfx ファイルを指定すると、InstallShield でファイルが署名される時 SignTool.exe が使用されます。 .spc ファイルと .pvk ファイルを指定すると、ファイルの署名に Signcode.exe が使用されます。 .pfx ファイルは、より多くの異なる環境 (ロックされたビルド マシンなど) で動作するため、より頻繁に利用されています。 InstallShield でデジタル署名パスワードを指定するとき、 .pfx ファイルを使用している場合、パスワードのプロンプトは表示されなくなります。 .spc ファイルと .pvk ファイルを使用している場合は、パスワードのプロンプトが表示されることがあります。

以前、InstallShield では、.msi ファイルと Setup.exe ファイルのみ署名が可能でした。また、デジタル署名として指定できるのは .spc ファイルと .pvk ファイルのみで、.pfx ファイルを指定することはできませんでした。

この機能により IOC-000055861、IOC-000055862 および IOC-000056947 が解決されました。

インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7 と SSL のサポート

InstallShield には今回より IIS 7 のサポートも含まれています。

また、インストールに、Web サイトの SSL 証明書を含めることもできます。SSL サーバー証明書を含めることにより、ユーザーは Web サーバーの認証および Web コンテンツの有効性の確認を行うことができると共に、セキュリティで保護された接続を確立することができます。

新しい Microsoft .NET Framework 3.0 前提条件

InstallShield には今回、Express プロジェクトに追加することができる .NET Framework 3.0 前提条件が含まれています。

Visual C++ 8.0 マージ モジュールの追加

InstallShield に、Visual C++ 8.0 SP1 のマージ モジュール (バージョン 8.0.50727.762) が追加されました。

ダイアログ ボタンの UAC シールド アイコンのサポート

インストールが Windows Vista システム上で実行されているとき、インストールが昇格された権限でまだ実行されていない場合、今回より、[インストールの準備完了] ダイアログの [インストール] ボタンと [アンインストールの準備完了] ダイアログの [削除] ボタンに [ユーザー アカウント制御 (UAC)] シールドアイコンが表示されます。

InstallShield は昇格された権限で実行されます。このため、Windows Vista システムでインストールを InstallShield 内から起動したとき、インストールは昇格された権限で実行され、[ユーザー アカウント制御 (UAC)] シールドアイコンは [インストールの準備完了] と [アンインストールの準備完了] ダイアログで表示されません。

追加された SQL Server 2005 Express Edition SP1 セットアップ前提条件

InstallShield に Microsoft SQL Server 2005 Express Edition SP1 のセットアップ前提条件が追加されました。このセットアップ前提条件は、Express プロジェクトに追加することができます。

Windows Embedded CE 6.x のサポート

今回より、インストールで Windows Embedded CE 6.x を具体的にターゲットすることができるようになりました。これは、Express プロジェクトとスマート デバイス プロジェクトに適用します。

更新された DirectX 9.0c オブジェクト

DirectX 9.0c オブジェクトは今回より、すべての最新の DirectX 9.0c コアとオプションのコンポーネントをインストールします。

また、DirectX 9 オブジェクト ウィザードにも一部変更が加えられました。このウィザードでは今回より、再配布可能ファイルを Disk1 フォルダに含めるか、または .msi ファイルにストリームするかを指定することができます。この変更により、圧縮インストールで DirectX 9 オブジェクトが使用できるようになりました。また、サイレント インストールでも今回より DirectX 9 オブジェクトが使用できるようになりました。

DirectX インストールを起動するカスタム アクションは今回より、Windows Vista システムで昇格された権限を使って実行できるように、[実行] シーケンスにスケジュールされ、遅延システム コンテキストで実行されます。この機能により 1-E8C7W が解決されました。

Windows Server "Longhorn" システムをターゲットする機能

InstallShield では、インストールの必要条件として Windows Server "Longhorn" を指定することができます。また、機能およびカスタム アクションに Windows Server "Longhorn" 関連の条件をビルドすることができます。

.NET Compact Framework 2.0 SP1 のサポート

今回より、Windows Mobile ウィザードで .NET Compact Framework 2.0 を選択して、.NET Compact Framework 2.0 SP1 がシステム上に存在するとき、.NET Compact Framework 2.0 SP1 がプロジェクトに追加されるようになりました。これには、.NET Compact Framework 2.0 SP1 がインストールされているか、または InstallShield Program Files フォルダ内の Support フォルダに追加されている必要があります。

これは、Express プロジェクトとスマート デバイス プロジェクトに適用します。

新しい MSXML 6 SP1 セットアップ前提条件

InstallShield に、Express プロジェクトに追加することができる新しい MSXML 6.0 SP1 セットアップ前提条件が追加されました。

FLEXnet Connect サポート

Express プロジェクトに FLEXnet Connect 6.1 または 5.x の再配布可能ファイルを追加することができます。[アップデート通知] ビューで、プロジェクトに含める FLEXnet Connect のバージョンを選択することができます。バージョン 6.1、または [オプション] ダイアログ ボックスの [マージ モジュール] タブにある [マージ モジュールの場所] 領域で指定されている場所にインストールされている任意のレガシー バージョンを含めることができます。

[アップデート通知] ビューに、FLEXnet Connect 6.1 がサポートする新しい "ベンダー データベース" 設定が追加されました。

強化機能

リリースにおけるユーザビリティの強化点

[リリース] ビュー (旧 [リリースのビルド] ビュー) のリリースの設定が、カテゴリ別に複数のタブで再構成されました。

[リリースの配布] ビューにあった設定は、[リリース] ビューの新しい [ポストビルド] タブに移されました。

[ポストビルド] タブには、ビルド時にリリースをフォルダまたは FTP サイトに自動的に配布できるように構成できる設定があります。

[リリース] ビューでリリースをクリックしたときに表示されるコマンドに、新しい [配布] コマンドが追加されました。このコマンドを選択すると、リリースに関連するすべてのファイルが [ポストビルド] タブで指定された場所にコピーされます。

[ファイル] ビューと [再配布可能ファイル] ビューにおけるユーザビリティの強化

[ファイル] ビューにおける強化内容は次のとおりです：

- [インストール先コンピュータのファイル] ペイン内でファイルを右クリックしてから、新しい [1 つ上のフォルダを開く] コマンドをクリックできます。Windows エクスプローラ ウィンドウが開き、右クリックして選択したファイルを含むフォルダが表示されます。
- [インストール先コンピュータのファイル] ペインで右クリックすると、新しい [追加] コマンドが利用できます。このコマンドを使うと [開く] ダイアログ ボックスが表示され、プロジェクトに追加するファイルを参照することができます。
- このビューの右上に、新しいリンク ([ソース ペインの表示] または [ソース ペインの非表示]) が追加されました。この新しいリンクを使うと、このビューの上部に表示される [ソース コンピュータのフォルダ] ペインおよび [ソース コンピュータのファイル] ペインを表示または非表示に切り替えることができます。この 2 つのペインを非表示にして Windows エクスプローラ ウィンドウを開き、InstallShield 内に表示されている残りの 2 つのペインに Windows エクスプローラ ウィンドウから直接ファイルをドラッグアンドドロップすることができます。

[レジストリ] ビューの右上にも新しいリンク ([ソース ペインの表示] または [ソース ペインの非表示]) が追加されました。この新しいリンクを使うと、このビューの上部に表示される [ソース コンピュータのフォルダ] ペインおよび [ソース コンピュータのファイル] ペインを表示または非表示に切り替えることができます。

また、[再配布可能ファイル] ビューに 2 つの強化点が加えられました：

- このビューの右側のペインに、左上のペインで選択されたマージ モジュール、オブジェクト、またはセットアップ前提条件に関する詳細が表示されます。このビューの右上にある [詳細の表示] または [詳細の非表示] リンクをクリックすると、この詳細ペインを表示または非表示に切り替えることができます。
- セットアップ前提条件の [詳細] ペインに、選択されたセットアップ前提条件に関する完全な情報が表示されます。この情報には、前提条件に構成されている条件、コマンドライン パラメータ、およびその他の情報が含まれます。

[ショートカット/フォルダ] ビューにおける機能強化

Express プロジェクトの [ショートカット/フォルダ] ビューの一部が強化されました。

- ショートカットに使用されるアイコンを変更するには、そのショートカットを右クリックして、新しい [ショートカット アイコンの変更] コマンドをクリックします。[アイコンの変更] ダイアログ ボックスが開き、ショートカットが実行時にターゲット システムで作成されるときに使用されるアイコン ファイルと関連付けられたアイコン インデックスを選択することができます。
- [ショートカット] エクスプローラに一覧表示されるショートカットは、ターゲット システムで使用されるアイコン イメージと共に表示されます。以前、[ショートカット] エクスプローラでは、アイコンがショートカットに指定されていても、すべての種類のショートカットに異なるイメージが使用されていました。

セットアップ前提条件の機能強化

選択したリリースについて、Express プロジェクトのセットアップ前提条件をどこに配置するかを指定できる "セットアップ前提条件の場所" 設定が [リリース] ビューの **Setup.exe** タブに追加されました。

デフォルト値は、[個々の選択に従う] です。このオプションでは、[再配布可能ファイル] ビューで個々の前提条件について指定された場所が使用されます。

この他に、[Web からダウンロードする]、[Setup.exe から抽出する]、[ソース メディアからコピー] というオプションがあります。これらの 3 つのオプションは、[再配布可能ファイル] ビューで各セットアップ前提条件のプロパティについて指定された場所をオーバーライドします。

この強化により IOC-000055123 が解決されました。

SecureCustomProperties プロパティの強化されたサポート

[実行] シーケンスで昇格された権限を要求するインストールの [ユーザー インターフェイス] シーケンスでパブリック プロパティが設定されている場合、そのプロパティの値を [実行] シーケンスに渡すためには、プロパティが SecureCustomProperties プロパティの値としてリストされているか、または制限付きパブリック プロパティである必要があります。

InstallShield は今回より、場合によって [ユーザー インターフェイス] シーケンスから [実行] シーケンスに渡す必要があるプロパティを SecureCustomProperties プロパティに自動的に追加します。

このサポートは Express プロジェクトに適用します。

Express プロジェクトにおけるダウングレードの自動防止

エンドユーザーが現在のバージョンの製品をインストールしたとき、同製品の将来のメジャー バージョンを上書きできないようにするために、現在のインストールが将来のメジャー バージョンを上書きするのを防ぐサポートが自動的に追加されます。

ALLUSERS と [ユーザー情報] ダイアログの変更

InstallShield 2008 Express Edition より、すべての新規 Express プロジェクトでは、デフォルトで ALLUSERS プロパティが 1 に設定されています。ほとんどのインストールは、マシンごとに管理者権限を使用して実行される必要があるため、これが推奨される実装です。

InstallShield 12 Express Edition および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition にアップグレードしたとき、ALLUSERS プロパティの値は自動的に変更されません。また、このプロパティが以前のプロジェクトで定義されていない場合も、自動的に追加されません。[一般情報] ビューに、ALLUSERS の値を設定できる新しい ALLUSERS 設定が追加されました。

また、InstallShield 2008 Express Edition から、デフォルトで、すべての Express プロジェクトの [ユーザー情報] ダイアログは、エンドユーザーが製品をすべてのユーザーにインストールするか、または現在のユーザーのみにインストールするかを指定できるラジオ ボタンを表示しないようになっています。このダイアログについては、これが推奨される実装です。InstallShield 12 Express Edition および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2008 Express Edition にアップグレードしたとき、[ユーザー情報] ダイアログは自動的に変更されません。[ダイアログ] ビューを利用して、このダイアログのラジオ グループ ボタンの表示と非表示を切り替えることができます。

コマンドラインまたは MSBuild タスク パラメータで製品バージョンを変更する機能

IsCmdBld.exe を使ったコマンドライン ビルドでは、-y コマンドライン パラメータを使用して、コマンドライン ビルドの製品バージョンを指定することができます。

また、MSBuild の InstallShield タスクに、MSBuild で製品バージョンを指定することができる ProductVersion パラメータが追加されました。このプロパティは、デフォルトのターゲット ファイルが使用されたとき、プロパティ InstallShieldProductVersion として露出されます。

-y コマンドライン パラメータまたは InstallShield タスク ProductVersion パラメータは、製品バージョンのビルドバージョン (3 番目のフィールド) を増加するとき、特に便利です。

IIS Web サーバーで CMD コマンドが SSI #exec ディレクティブに使用されるのを許可するかどうかを指定するための新しい設定

IIS Web サーバーを構成して、#exec ディレクティブの CMD コマンドがシェル コマンドの実行に使用されるのを防いだり、CMD コマンドがこのタイプのコマンドの実行に使用されることを許可することができます。HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\W3SVC\Parameters レジストリ キーの SSIEnableCmdDirective レジストリ値によって、CMD コマンドが許可されているかどうかを判別されます。

InstallShield の [IIS 構成] ビューに、新しい "SSIEnableCmdDirective レジストリ値" 設定が追加されました。この設定を使って、インストールがターゲット システム上で SSIEnableCmdDirective レジストリ値をどのように構成するのかを指定することができます。また、SSIEnableCmdDirective レジストリ値を実行時に変更しないように指定することもできます (デフォルト動作)。

IIS Web サイト用の新しい "ホスト ヘッダー名" 設定

[IIS 構成] ビュー内の Web サイトについて、[Web サイト] タブに追加された新しい "ホスト ヘッダー名" 設定を使って、インストール中に追加された IIS Web サイトを識別するホスト ヘッダー名を指定することができます。

.msi ファイルから参照されていないディレクトリを削除する機能

[リリース] ビューの [ビルド] タブに、新しい "未使用のディレクトリを保持する" 設定が追加されました。この設定を使って、選択されたリリースをビルドするときに、InstallShield が .msi ファイルの Directory テーブルから未使用のディレクトリを削除するかどうかを指定することができます。デフォルト値は [いいえ] です。

この設定は、Express プロジェクトで提供されています。

InstallFinalize アクションの後 COM+ アプリケーションをインストールするかどうかを指定できる新しいチェック ボックス

[コンポーネント サービス] ビューの [インストール] タブ に新しい [InstallFinalize アクションの後でインストールする] チェック ボックスが追加されました。プロジェクト内の選択された COM+ アプリケーションに、グローバル アセンブリ キャッシュ (GAC) にインストールする必要がある .NET アセンブリが含まれている場合、このチェック ボックスを選択します。このチェック ボックスを選択すると、ISComponentServiceFinalize アクションは選択した COM+ アプリケーションを InstallFinalize アクションの後でインストールします。Windows Installer は、InstallFinalize が実行されるまでスクリプト内のセッションで加えられた変更をコミットしません。

Express プロジェクトに追加された定義済みシステム検索

InstallShield に、次の新しい定義済みシステム検索が追加されました。

- Adobe Reader 7
- Adobe Reader 6
- Internet Explorer 7.0

インストールでこれらの製品のいずれかが必要な場合、[要件] ビューまたはプロジェクト アシスタントの [インストール要件] ページを使って、これらのシステム検索をプロジェクトに追加することができます。エンドユーザーがインストールを起動すると、Windows Installer はターゲット システムの要件が満たされているかどうかを確認します。要件が満たされていない場合、インストールでシステム検索用に定義されているエラー メッセージが表示されます。

パッチ表示情報における強化

[識別] タブ (旧名 [アンインストール] タブ) では、Windows Installer 3.0 以降を実行しているシステムの [プログラムの追加と削除] で QuickPatch パッケージについて表示される情報を指定することができます。QuickPatch プロジェクトの [一般情報] ビューにあるこのタブには、表示名、製造元名、サポート URL などのアイテムについての設定があります。QuickPatch プロジェクトで最新のセットアップを変更するたびに、最新のセットアップからの [プログラムの追加と削除] 情報が [識別] タブにある設定の値として使用されます。必要に応じて、[識別] タブの値をオーバーライドすることもできます。また、[パッチのアンインストールを許可する (Windows Installer 3.0 が必要)] チェック ボックスも今回 [共通] タブに追加されました。この設定は以前、[アンインストール] タブで提供されていました。

最短初期化時間の指定機能

[リリース] ビューにあるリリースについての Setup.exe タブに "最短初期化時間" 設定が新しく追加されました。この設定を利用して、エンドユーザーがこのリリースを実行した時に、インストールが初期化ダイアログ (およびスプラッシュ画面) を表示する最短時間 (秒) を指定できます。

バグ修正

Trialware

今回より、InstallShield の Trialware プロテクションでラップされた .exe ファイルを、Windows Vista システム上で実行できるようになりました。以前の InstallShield で .exe ファイルが Trialware プロテクションでラップされている場合、エンドユーザーはそのファイルを Windows Vista システムで実行できません。

また、InstallShield ライセンシング サービス (すべての Trialware 製品に必要な) が今回より、インストール時に起動します。これにより、管理者権限がないエンドユーザーも、Trialware を実行できるようになります。こ

これは、Windows Vista システム上で特に利点があります。以前、Trialware を Windows Vista システム上で実行するには、エンドユーザーは管理者権限をもたなければなりませんでした。

1-15MOJP

DirectX 9 マージ モジュールが、Windows Server 2003 システムにインストールすることができるようになりました。以前、このマージ モジュールを含むインストールがこのプラットフォームで実行されたとき、失敗することがありました。

1-16HBHJ (スマート デバイス)

スマート デバイス プロジェクトで、ファイル名の文字数が合わせて 250 文字を超えるとき、複数のファイルを追加できなかった問題は今回修正されました。以前この追加を試みたとき、ファイルがプロジェクトに追加されませんでした。

1-1ASUED、IOC-000051103

.NET Framework を含むインストールが Tablet PC で実行されているとき、セットアップの初期化中にハングしていた問題は今回修正されました。また、.NET Framework を含むインストールが Tablet PC で実行されているとき、不足しているファイルについてエラーを表示していた問題も修正されました。

1-EV2ZD

スウェーデン語 (言語 1053) の文字列 IDS_ACTIONTEXT_109 に存在していたスペルミスは正しく修正されました。

1-JE6NB

GAC にインストールされた .NET DLL がメジャー アップグレード中に削除されていた問題は今回修正されました。

1-ZBHVS

今回より、英語以外のランタイム文字列を含むプロジェクトを InstallShield Express 2.02 から InstallShield 2008 Express Edition に正常に移行することができます。以前、英語以外のランタイム言語は英語に変わり、InstallShield でエラー 493 (不明なエラー) が発生していました。

IOA-000026128

InstallShield の評価版で作成されたインストールで、Windows Installer 3.1 と .NET Framework 2.0 がインストールされたときに 4121 エラーが発生していた問題は今回修正されました。

IOA-000026463

記号を含むレジストリ キー文字列値を追加したときに、InstallShield がクラッシュしていた問題は今回解決されました。

IOA-000026906 (QuickPatch)

COM 関連のテーブルが不足しているベースからビルドされた QuickPatch プロジェクトでビルド エラー -4344、-4346、および -4347 が発生していた問題は、今回修正されました。

IOA-000026945 (QuickPatch)

[編集] メニューで [文字列 ID を検索] コマンドが QuickPatch プロジェクトで無効にされました。これは、文字列 ID がこのプロジェクト タイプに適用できないためです。

IOA-000027301、IOC-000055443、IOC-000057953

Windows Installer 2.0、3.0 および 4.0 エラーのランタイム文字列 (IDS_ERROR_1329 から IDS_ERROR_3002 までの文字列) が、すべてのサポートされているランタイム言語に翻訳されました。

IOA-000028046

プロジェクト アシスタントの [インストールのビルド] ページで、単一 .msi パッケージのビルドとデジタル署名が可能になりました。以前、特定の条件で、ビルド エラー -1027 が発生していました。

IOA-000028846

[機能] ビューで、キーボード ショートカットを使って機能を上下または左右に移動したとき、機能がフォーカスを失っていた問題は今回修正されました。この修正により、キーボードのショートカットを再度使用するとき、マウスまたは TAB キーで機能を再度選択する必要がなくなりました。以前、機能はフォーカスを失っていました。

IOA-000029813

前提条件のファイルがシステムにインストールされていない状態で、セットアップ前提条件がプロジェクトに追加されたとき、プロンプトが表示され、ファイルをダウンロードするかどうかを聞いてきます。以前、このプロンプトは表示されませんでした。

IOA-000029854

Setup.exe から抽出されるように構成されている 1 つまたは複数のセットアップ前提条件を含むプロジェクトの SingleImage リリースをビルドしたとき、これらの前提条件は今回より Setup.exe ファイルに圧縮されます。以前、ビルド時に、InstallShield は前提条件に Disk1 フォルダに別のディレクトリを作成していました。

IOA-000030034

[アップグレード パス] ビューで [アップグレード パス] をクリックすると表示されるヘルプ ペインに Resequence RemoveExistingProducts ボタンが追加されました。プロジェクトでこのボタンを 1 回クリックすると、RemoveExistingProducts が InstallFinalize アクションの後にシーケンスされます。このボタンを 2 回目にクリックすると、メッセージが表示され、RemoveExistingProducts アクションを InstallFinalize アクションの前に再シーケンスするかどうかを聞いてきます。[OK] をクリックすると、アクションが再シーケンスされます。以前、このアクションをシーケンスで元の場所に戻すことはできませんでした。

IOA-000030242

[リリース] ビューの ".NET 言語パック" 設定で簡体字中国語と繁体字中国語が選択されたとき、インストール時にいずれか片方がターゲット マシンにある場合、適切な中国語言語パック (簡体または繁体) がインストールされます。以前、両方の言語パックがインストールされていました。

IOA-000030285

[INI ファイルの変更] ビューで、セクションを .ini ファイルに追加して、そのセクションにキーワードを追加したとき、その .ini ファイル セクションを削除した際に、IS_STRING_NOT_DEFINED.ini エラーが表示されていた問題は今回修正されました。

IOA-000030643

Netscape 8.1.2 がデフォルト ブラウザのとき、セットアップ前提条件が実行時に正しくダウンロードしてインストールできなかった問題は今回修正されました。以前、セットアップ前提条件はダウンロードされず、インストールは失敗していました。

IOA-000031277

IDS_ERROR_66 文字列のフランス語 (1036) の値に、今回より、閉じかっこ (}) が含まれています。以前、この閉じかっこが不足していました。

IOA-000031533

以前のバージョンの InstallShield で作成およびビルドされて、かつ、COM 抽出を使ったファイルが最低 1 つ含まれている .msi ファイルを基に QuickPatch プロジェクトをビルドしたとき、ビルド エラー -4344、-4346、

および -4347 が発生していた問題は今回修正されました。以前、特定の条件で、これらのエラーが発生していました。

IOA-000032803

モバイル デバイス インストールに含まれているファイルの "読み取り専用" 属性が、リリースのビルド中に変更されなくなりました。以前、読み取り専用ファイルがモバイル デバイス インストールに含まれている場合、リリースをビルドしたとき、属性が書き込み可能に変わっていました。

IOB-000004432

InstallShield のフリー ツール バーのタイトル バージョンを右クリックしたとき、[非表示] が他のコマンドと共に表示されます。このコマンドを選択すると、ツールバーが閉じます。以前、このコマンドは [エラー] と呼ばれていました。

IOB-000048732

文字列 IFX_SDFINISH_REMOVE_MSG1 が日本語文字列テーブルで正しく翻訳されました。

IOC-000040172

IIS は、IIS Web サイトと仮想ディレクトリを含む機能 (1 つまたは複数) のインストールが選択され、ターゲット システムに IIS がいないときのみインストールされる必要がありますという説明を含むエラーがインストールで表示されます。エラー メッセージ ボックスには、[中止]、[無視] および [再試行] ボタンが含まれています。以前、インストールされる機能に IIS のサポート含まれているいにかかわらず、このエラー メッセージが、ターゲット マシンに IIS がインストールされていなく、インストールに IIS サポートが含まれているとき常に実行時に表示されていました。

IOC-000041258

セットアップ前提条件コマンドの環境変数が解決されるようになりました。今回より、環境変数の動作は、cmd.exe の動作にほとんど一致します。

IOC-000043287

エンドユーザーが、インストールで [インターネット インフォメーション サービス] ビューで構成された IIS 仮想ディレクトリがインストールされた製品をアンインストールするとき、IIS がマシンにインストールされている必要があった問題は今回修正されました。以前、アンインストールは失敗し、エンドユーザーに製品のアンインストールに IIS が必要だと通知するエラーが表示されていました。

IOC-000045403

MSBuild サポートは今回より、名前にドットが使われているプロジェクトからのプロジェクト出力グループを解決できるようになりました。

IOC-000046364

InstallShield の Trialware プロテクションでラップされたファイルを、Windows Vista システム上で実行することができるようになりました。また、InstallShield ライセンシング サービス (すべての Trialware 製品に必要) が今回より、インストール時に起動します。これにより、管理者権限がないエンドユーザーも、Trialware を実行できるようになります。これは、Windows Vista システム上で特に利点があります。以前、Trialware を Windows Vista システム上で実行するには、エンドユーザーは管理者権限をもたなければなりませんでした。

IOC-000047019

今回より、DLL から COM データを抽出すると、その COM データはコンポーネントのキー ファイル インストール先の相対パスに抽出されます。以前、インストール ソースへのリテラル パスが使用されていました。

IOC-000047171

Windows Vista に InstallShield がインストールされている場合、今回より、COM 抽出用に構成されたコンポーネントをもつプロジェクトをビルドできます。以前、Windows Vista システム上では COM 抽出にエラーが発生したため、COM 情報は抽出されませんでした。

IOC-000047213、IOC-000058665

今回より、[リリース] ビューの "キャッシュ パス" 設定における圧縮リリースのためのデフォルト値が [LocalAppDataFolder]Downloaded Installations に設定されています。以前のデフォルト値 [WindowsFolder]Downloaded Installations は、ロックされたシステムで使用できないことがあります。プロジェクトを InstallShield 12 以前から InstallShield 2008 に移行したとき、"キャッシュ パス" 設定は自動的に変更されないため、必要な場合、この値を手動で変更します。"キャッシュ パス" 設定を変更するには、[リリース] ビューの Setup.exe タブを利用します。

エンドユーザーがキャッシュ パスへのアクセス権をもたないとき、インストールは失敗します。

IOC-000050312

カスタム アクションが InstallFinalize の後にシーケンスされたとき、ISSetupFilesCleanup アクションをインストール実行シーケンスの最後のアクションとして挿入できなかった問題は今回修正されました。

IOC-000050415

読み取り専用のプロジェクトを閉じて、それを元のファイル名で保存しようとしたとき、InstallShield が保存する前に終了していた問題は今回修正されました。今回より、別のファイル名を指定することができる [名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。

IOC-000050515

ResolveSource 標準アクションが [インストール]-[実行] シーケンスに追加されました。CostInitialize アクションの後にスケジュールされています。このアクションは初回インストールで実行されますが、メンテナンスまたはパッチでは実行されません。このアクションは、インストール UI シーケンスでも続けて提供されています。

IOC-000050689

InstallShield では今回より、機能の名前を変更してから、それをある機能から別の機能へドラッグアンドドロップすることができます。以前、InstallShield は、このシナリオでクラッシュしていました。

IOC-000050713

[ファイル] ビューで、角かっこを含むフォルダ名が適切に表示されるようになりました。以前、角かっこがフォルダ名の一部として使用されたとき、かっこ、またはそのかっこに続く文字が表示されませんでした。

IOC-000050724

ビルド時に COM 抽出が実行されているとき、不足しているそれぞれの依存関係に対してメッセージ ボックスが表示されていた問題は今回修正されました。

IOC-000051113 (基本の MSI、InstallScript MSI)

"ビルド時に .NET をスキャン" オプションが最低 1 つのコンポーネントに使用されたとき、ビルド エラーが発生した問題は今回修正されました。以前、あるケースでビルド エラーが発生したり、InstallShield がクラッシュしたりしていました。インストールがスタンドアロン ビルドまたはコマンドラインからビルド中に、あるケースでビルド プロセスが突然終了していましたが、この問題は修正されました。

IOC-000051118

Setup.exe は、Windows XP Tablet PC Edition でエンドユーザーがセットアップ前提条件のインストールをキャンセルしたとき、適切に終了します。

IOC-000051522

Standard DLL カスタム アクションは、必要なとき、ファイルキーの代わりにファイル パスを参照します。これにより、標準 DLL カスタム アクションが、ファイル名が重複する (したがって、異なるのはファイルキー) 場合も機能するようになり、手動で ISDLLWrapper テーブルの Target 列を変更する必要がなくなります。

IOC-000051685

インストールのビルド時に、アイコンが .dll または .exe ファイルから抽出されたとき、ショートカット アイコンが今回より、Windows Vista システムで表示されます。また、シールド オーバレイはアイコンで表示されなくなりました。

IOC-000051711

RegisterProgIdInfo アクションが、対応する Class 情報がないとき、ProgId 情報を登録できなかった問題は今回修正されました。以前 ProgID 情報は登録されませんでした。したがって、ファイルの拡張子は設定されましたが、文書のアイコンと説明は設定されませんでした。

IOC-000052420

Upgrade テーブルにエントリが何もない状態で起動された ISSetAllUsers カスタム アクションが失敗していた問題は今回修正されました。

IOC-000052459

[モバイル デバイス] ビューで Palm OS インストールのハイパーリンクをクリックしたとき、Palm OS ウィザードが適切に開くようになりました。以前、このハイパーリンクがクリックされたときも何も起こりませんでした。このため、設定を編集をするとき、中央のペインで Palm OS デバイスを右クリックしてから、[変更] をクリックする必要がありました。

IOC-000052790

NT プラットフォーム用の InstallShield MSDE 2000 Object が原因で例外エラーが発生していた問題は今回修正されました。。以前、このオブジェクトの CheckInstance カスタム アクションにバグが含まれていたため、このオブジェクトを含むインストールが一部のシステムで失敗していました。

IOC-000052830

プロジェクトを InstallShield 以前から InstallShield 2008 に移行したとき、nested IIS サブディレクトリが必要に応じて作成されなかった問題は今回修正されました。今回より、IIS 仮想ディレクトリが VirtualDirectory\VirtualSubDirectory という名前を持つとき、[インターネット インフォメーション サービス] ビューで VirtualDirectory というディレクトリが作成され、VirtualSubDirectory というサブディレクトリが作成されます。

IOC-000053303

ネイティブ イメージ アセンブリ ファイルが、元のアセンブリに従ってフィルタされるようになりました。これにより、依存関係のスキャンで、System.ni.dll などのアセンブリが除外されるようになりました。

IOC-000053338

InstallShield の [ヘルプ] メニューで [検索] コマンドを選択したとき、Windows Vista システムでクラッシュが発生していた問題は、今回修正されました。

IOC-000053364

実行時に、Setup.exe ファイルからエンドユーザーに対してインストールがオプションであることを通知するプロンプトが表示されたとき、オプションとしてマークされたセットアップ前提条件がクラッシュしていた問題は今回修正されました。

IOC-000053506

IIS 機能を追加したとき InstallShield がプロジェクトに追加するビルトイン IIS カスタム アクション (caCreateVRoots、caExtractIISSuppFiles、caIISCleanup、caRemoveVRoots、caRlbackVRoots) に、AdminUser 条件ではなく、Privileged 条件が与えられます。以前、AdminUser 条件がこれらのカスタムアイコンにそれぞれ使用されていました。

IOC-000053588

CD から実行されたインストールで、Windows Vista システム上に一時ファイルがそのまま残されていた問題は今回修正されました。以前、ある条件の下、Express インストールで Setup.exe のコピーが一時フォルダの GUID サブフォルダに残っていました。

IOC-000053711

リリースが Windows UI が英語以外の言語に設定されているマシンでビルドされたとき、今回より、デジタル証明書に指定されたパスワードが使用されます。以前、InstallShield で指定されたパスワードが使用されずに、デジタル証明書のパスワードを入力するように求めるプロンプトが数回表示されていました。

IOC-000053812

今回より [概要情報ストリーム] の LastAuthor に、個人の名前ではなく、InstallShield の値が設定されます。

IOC-000053956

InstallShield で依存関係のスキャンで、msvcr80.dll などの SxS 依存関係 DLL が検索されるようになりました。

IOC-000053969

[インターネット インフォメーション サービス] ビューで仮想ディレクトリの名前にピリオドを使用したとき、実行時に仮想ディレクトリが正常に作成されるようになりました。以前、仮想ディレクトリの名前にピリオドを使用したとき、名前が切断されたり、仮想ディレクトリが実行時に正しく作成されなかったり、シーケンス外に作成されたりしていました。

IOC-000054055

依存関係スキャンから除外するファイルの一覧を表示する Filters.xml で、一時 ASP.NET ファイル フォルダからのファイルが表示されていた問題は今回修正されました。

IOC-000054167

今回より、InstallShield で作成されたインストールは、外部 .tlb ファイルを使用する COM+ コンポーネント (DLL) を正常にインストールします。以前、COM+ コンポーネントはインストールされませんでした。

IOC-000054218

(リリース設定で "Web からダウンロードする" として含められた) .NET Framework と共にビルドされたインストールを実行したとき、プログラムが異常終了していた問題は今回修正されました。以前、これは、リリースがあるマシン構成でビルドされたとき発生していました。

IOC-000054291

[概要情報ストリーム] の日本語文字列がビルドされた .msi パッケージで文字化けしていた問題は今回修正されました。

IOC-000054370

モバイル デバイス インストール内のファイルが Pocket PC 2003 し、Windows Mobile 5 をターゲットしないとき、結果の .cab ファイルが Windows Mobile 5 システムにインストールされなかった問題は今回修正されました。

IOC-000054463

デジタル署名に .pfx ファイルを指定すると、InstallShield でファイルが署名される時 SignTool.exe が使用されます。ファイルの署名に使用するパスワードを指定したとき、パスワードはコマンドラインを通して SignTool.exe に渡され、パスワードを要求するプロンプトは表示されません。

以前、ファイルにデジタル署名を行うには、.spc ファイルと .pvk ファイルを指定しなければなりません。これらの種類のファイルでは、Signcode.exe がファイルの署名に使用されます。InstallShield でデジタル署名パスワードを指定すると、Signcode.exe によってパスワードを要求するプロンプトが表示される場合があります。InstallShield がパスワードをこのプロンプトに渡そうと試みます。InstallShield がファイルのデジタル署名を実行しているときにマシンを使用すると、InstallShield はパスワードを、Signcode.exe ではなく、使用中の別のアプリケーションに渡す可能性があります。Signcode.exe の代わりに SignTool.exe を使用すると、このセキュリティの脆弱性が取り除かれます。

IOC-000054492

システム検索ウィザードを利用して、ファイルの場所に基ついてフォルダパスの検索を行うシステム検索を作成したとき、InstallShield がクラッシュしていた問題は今回修正されました。

IOC-000054749

1 つの IIS Web サイトおよび 1 つ以上の仮想ディレクトリをインストールするインストールが失敗して、インストールがロールバックされたとき、IIS アイテムがロールバックされなかった問題は今回修正されました。

IOC-000054829

InstallShield を使用して COM サーバーから COM 情報を抽出すると、データは TypeLib テーブルではなく Registry テーブルに書き込まれます。マイクロソフト社は TypeLib テーブルを使用しないことを強く推奨しています。詳しくは、MSDN Web サイトの [TypeLib Table](#) トピックを参照してください。

IOC-000054892

IIS サポートを含むインストールがある条件下で実行されたとき、エラー -2172 が発生していた問題は今回修正されました。以前、次の値が [インターネット インフォメーション サービス] ビューで指定されたとき、このエラーが発生していました: 0 が Web サイトのポート番号に指定されたとき、および有効なバージョン番号が仮想ディレクトリの ASP .NET バージョンに指定されたとき。

IOC-000055159

"FLEXnet Connect の有効にする" 設定で [いいえ] を選択したとき、常に FLEXnet Connect マージ モジュールがプロジェクトから削除されます。以前、このマージ モジュールが削除されないことがありました。

IOC-000055163

"ODBC データ ソースの管理者" で使用されている用語と整合性をとるために、[ODBC リソース] ビューにあるデータ ソース名の設定名が [説明] から [名前] に変更されました。

IOC-000055219

[インターネット インフォメーション サービス] ビューで IIS Web サイトまたは仮想ディレクトリの ASP.NET バージョンが指定された状態で、指定したバージョンに Web サイトまたは仮想ディレクトリをマッピングするために ASP.NET IIS の Registration Tool (Aspnet_regiis.exe) がインストールで実行されたとき、[コマンドライン プロンプト] ウィンドウが表示されていましたが、この問題は今回修正されました。

IOC-000055471

デンマーク語のシステムで、InstallShield の自己登録が原因で、実行時エラー 1904 が発生していた問題は今回修正されました。

IOC-000056056

InstallShield がアンインストールされたとき、Outlook で使用されている Microsoft Office レジストリ キー (HKEY_CLASSES_ROOT\Interface\{00020404-0000-0000-C000-000000000046}) もアンインストールされていた問題は今回修正されました。

IOC-000056356

2 番目のバイトに 0x5d がある日本語文字が圧縮インストールの製品名で使用されたとき、Setup.exe がエラー 1155 を報告していた問題は今回修正されました。以前、このエラーは、Setup.exe が .msi パッケージを見つけることができなかつたため表示されていました。

IOC-000056523

.NET 再配布可能ファイルで提供されていないスペイン語 (トラディショナル ソート) オプションが選択可能だった問題は今回修正されました。以前、これが原因で、ランタイム エラーが発生していました。このオプションが選択されているプロジェクトが移行されたとき、スペイン語 (モダン ソート) に変更されます。

IOC-000056814

[一般情報] ビューで "発行元" 設定を空白のままにすると、今回よりエラーが表示されます。以前、この設定を空白のままにしておいても、エラーが発生しませんでした。"発行元" 設定を空にしたままリリースした QuickPatch を作成しても失敗に終わります。

IOC-000056818

フランス語のセットアップ初期化ダイアログで、実行時に、"L'installation" ではなく "L'installateur" 表示されるようになりました。

IOC-000057423

[インターネット インフォメーション サービス] ビューの "ASP.NET バージョン" 設定で入力する値について、今回より InstallShield ヘルプ ライブラリに、より詳しい情報が含まれています。

IOC-000058214

仮想ディレクトリは含まず、Web サイトのみ含むプロジェクトをビルドしたとき、次のビルド警告が表示されま
す: "ISDEV : 警告 -7162: Web サイト DisplayName1 に仮想ディレクトリが含まれていません。 Web サイ
トは、関連付けられている仮想ディレクトリがインストールされなっていないとき、ターゲット マシン上に作成さ
れません。" 以前、Web サイトがインストールされないときも、ビルド警告でアラートされませんでした。

IOC-000058756

COM 抽出を実行したとき、HKLM\AppID レジストリ キー全体がアンインストール時に削除されるようにマークされていた問題は今回修正されました。

IOC-000059071

プロジェクトに "バージョン" 文字列 (例、DXVERSION <= ProductVersion) を含む起動条件がある状態で、プロジェクト アシスタントの [インストールの要件] ページをクリックしたとき、InstallShield がクラッシュしていましたが、この問題は今回修正されました。

IOC-000059544 (Express、スマート デバイス)

スマート デバイス セットアップ ウィザードまたは Windows Mobile ウィザードの .NET Compact Framework パネルでオプションを 1 つ以上選択したとき、[詳細] ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、[ターゲットデバイス] ダイアログ ボックスが開き、選択した再配布可能ファイルが必要とするターゲット プロセッサとプラットフォームを指定することができます。今回より "Windows CE .NET 5.0, ARMV4" もオプションに追加されました。以前、このオプションがありませんでした。

IOC-000059607

[リリース] ビュー内にあるリリースの [署名] タブにあるデジタル署名ファイル (.pfx ファイルまたは .pvk ファイルがある .spc ファイル) を指定すると、ショートカットの Icon テーブルにあるすべてのファイルにデジタル署名が行われます。InstallShield はアイコンを実行可能ファイルから抽出して、Icon テーブルに格納します。

IOC-000060807

InstallShield に含まれているシリアル番号 DLL を使って、インストール時にシリアル番号の検証を実装したとき、エンドユーザーが [ユーザー情報] ダイアログでシリアル番号を入力しなかったとき、インストールがクラッシュしていましたが、この問題は今回解決されました。

IOC-000060848

今回より、インストールで IIS 仮想ディレクトリとネストされた仮想サブディレクトリがインストールされたとき、仮想ディレクトリとネストされた仮想サブディレクトリは表示名に従ってアルファベット順に作成されます。これにより、VirtualDirectory1 は、ネストされた仮想サブディレクトリ

VirtualDirectory1/VirtualSubDirectory が作成される前に作成されます。その後、VirtualDirectory2 が作成され、最後にネストされた仮想サブディレクトリ VirtualDirectory2/VirtualSubDirectory が作成されます。

以前、ある状況で IIS インストールが実行されたとき、仮想サブディレクトリのインストールが、その親仮想ディレクトリのインストールの前に試みられていました。これにより、次のランタイムエラーが発生していました：

1: エラー: OpenKey が次で失敗しました:

/LM/W3SVC/1/Root/DisplayName7\DisplayName8\DisplayName9\DisplayName10\DisplayName11.

HRESULT = HRESULT_FROM_WIN32(ERROR_PATH_NOT_FOUND)

1: IISRT のエラー: -2147024893。エラー トランスレーション: システムで指定されたパスが見つかりません。

IOC-000060978

Visual Studio 内から開かれた InstallShield の [ショートカット/フォルダ] ビューで、[ショートカット] ルート ノードを右クリックして、ALLUSERSPROFILE をクリックしたとき、エラーが表示された問題は今回修正されました。

IOC-000060982

スマート デバイス セットアップ ウィザードと Windows Mobile ウィザードの実行中、.inf ファイルでファイルの関連付けが正しく生成されるようになりました。以前、.inf ファイルのファイルの関連付けの一部で引用符が使用されていませんでした。このため、関連付けられているファイル拡張子がある文書に空白があったとき、アプリケーションでそれを開くことができませんでした。

IOC-000060987

Windows Mobile ウィザードの [cab ファイルの署名] パネルでデジタル署名情報を指定したとき、モバイル デバイス .cab ファイルが Binary テーブルに追加される前に署名されるようになりました。以前、署名のな

い .cab ファイルが署名される前に Binary テーブルに追加されていました。この結果、インストールの ActiveSync のファイル転送中に、署名がない .cab ファイルをモバイル デバイスにインストールする試みが行われていました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

InstallShield を実行するシステムの要件

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB 空き領域

ディスプレイ

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows 2000 SP3 以降
Windows XP
Windows Server 2003
Windows Vista

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 移行を推奨)

権限

システムの管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

ターゲット システム (デスクトップ コンピュータ) の要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最低要件を満たさなくてはなりません。

Windows 2000
Windows XP
Windows Server 2003
Windows Vista

ターゲット システム (モバイル デバイス) の要件

InstallShield では、ActiveSync や他のデスクトップ コンポーネントを使用しない、デバイスへ直接行うインストールがサポートされています。

InstallShield では、モバイル デバイス インストールをデスクトップ インストールへ追加することもできます。

Windows Mobile デバイスの要件

InstallShield では、多数の Windows Mobile プラットフォームおよびプロセッサがサポートされています。以下は、Windows Mobile プラットフォームの一覧です。

- Windows Embedded CE 6.x
- Windows Mobile 5.0 for Pocket PC
- Windows Mobile 5.0 for Smartphone
- Windows CE .NET 5.0
- Windows CE .NET 4.x
- Pocket PC 2003
- Pocket PC 2002
- Pocket PC
- Palm-size PC 2.11
- Palm-size PC 2.01
- Handheld PC 2000
- Handheld PC Pro
- Handheld PC 2.0
- Smartphone 2003
- Smartphone 2002

InstallShield は、この一覧にないプラットフォームもサポートしますが、条件設定ができないという点で上記のプラットフォームと異なります。

InstallShield では、次の Windows Mobile プロセッサがサポートされています。

- ARM920
- ARM820
- ARM720
- Common Executable Format (CEF)
- Hitachi SH4
- Hitachi SH3E
- Hitachi SH3
- i686
- i586
- i486
- MIPS R4000
- MIPS R3000
- MIPS R2000
- SHx SH4
- SHx SH3
- StrongARM-XScale

Palm OS デバイスの要件

InstallShield では、Palm OS 3.5 以降がサポートされています。

Windows Mobile デバイス インストールのデスクトップ要件

Windows Mobile デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータの要件は以下のとおりです。

- Microsoft ActiveSync 3.x 以降 (Windows Mobile 5.x デバイスには ActiveSync 4.x が必要)
- 管理者権限

Palm OS デバイス インストールのデスクトップ要件

Palm HotSync は、Palm OS デバイスにアプリケーションをインストールするために使用されるデスクトップ コンピュータに必要です。

既知の問題

既知の問題の一覧は、ナレッジベースの記事「[Q113341](#)」を参照してください。
